

不景気なときこそ 新事業に取り組む

——耐震偽装問題をきっかけとする建築不況に世界不況が重なり、建築業は苦境にあります。御社はいかがですか。

渋谷 実際、この業界の冷え込み方は尋常ではありません。私はバブル時代のいい頃を知っているから、なおさらこの厳しさを実感しています。一九九〇年代初め、バブルがはじけて受注が激減したときには、台風後の復旧作業で現場が急増するなどして救われた経験もあり、多くを学びました。

最近も大きな受注を予定していたのですが、リーマンショックで駄目になってしまいました。その仕事のために社員を二人採用していただけに、つらかった。ただ、そこで諦めては駄目。そこから「新しい仕事を取ってこよう」と意欲を持って行動することが大切です。

今は一、二年前の一〇〇倍動いた結果、同じ程度の業績を維持している格好です。業績を保ってられるのは、常に「半年先を見て動く」ことを心がけ、社長から社員まで全員一丸となって仕事ができているからです。半年先の受注を確保するというだけでなく、他社に先んじて新たな商品開発にも取り組んでいます。

近年、力を入れている事業の一つに「無

前社長に「腐った木」と不評を買いながらも育て上げた「古材銀行」は、いまや事業の柱の一つ



印良品の家」があります。新築家屋のシックハウス症候群が問題になっていますが、長く安心して住める家造りを目指しています。ソフトバンクモバイルの孫正義代表ともご縁をいただき、奈良県で携帯電話販売などの一次代理店を任せていただきました。人のご縁を大切に、これまで世界を見て回った経験を生かして、「本当に良いもの」を広げていきたいと考えています。

また、マンション建築などの資産活用のコンサルティングでは、ペット共生型住宅をはじめ、時代のニーズに合わせたさまざまなご提案をさせていただいています。

——最近、本格的なリゾート開発にも乗り出したと聞きましたが、具体的にはどのような仕掛けが隠されているのですか。

渋谷 奈良県の東吉野の地に内装、家具、

インテリアなどに、贅を尽くしたりリゾート施設「The sun moon valley（太陽と月の谷）」を造りました。

私はバブルの良い時代を知っていて、世界中のホテルやリゾート地を訪れましたが、どこも日本の常識では考えられない大胆さ、贅沢さがあります。ニューヨークのリゾートホテルで驚かされたのは、週末になると、ホテルのロビーの横にあるバーとプールで、人種も年齢も関係なく、皆がシャンパンを開けて祝いだすことでした。その光景を見て、「ああ、リゾートってこういうものなんだ」と強く感じました。

今回の開発にはタイのホテル、フォーシーズンズリゾートチェンマイの雰囲気を意識し、訪れた人が「ドキドキするような」大胆さを取り入れました。コテージの一部か